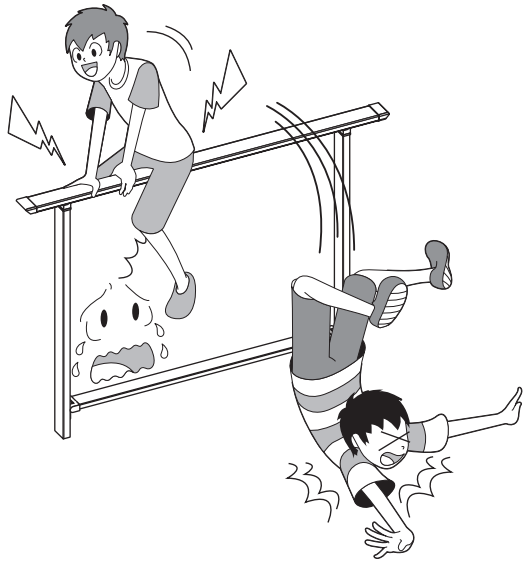
本紙を必ず施主様にお渡し下さい

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
本製品を正しく御理解いただくために、この説明書をよくお読みください。

■使用上のご注意

●商品本体の上には、乗ったり、腰かけたりしないでください。また、むやみにゆすったりしないでください。
※転落したり、脱落により重大な人身事故が発生する恐れがあります。



■お手入れ方法

●お手入れは中性洗剤を使用してください。シンナー等の石油系溶剤は、絶対に使用しないでください。
（塗装のはげ、キズ、変色、変形等の原因となります）・

●汚れは柔らかい布や、スポンジなどで拭き取ってください。・
金属タワシや研磨剤入り洗剤でこすると表面が傷つき、腐食の原因となります。・
・

●表面についたキズは、放置すると腐食の原因になります。
商品に付属のタッチアップ塗料で補修を行って下さい。

鉄製品のメンテナンス方法

※本書は商品の取り扱いについて説明したものです。
紛失されないよう、大切に保管してください。
Ver.1 Z04

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
本製品を正しく御理解いただくために、この説明書をよくお読みください。

■本商品は防錆処理を施し、焼付け塗装をしております。
風雨に耐えて長期間使用できるようになっています。但し、鉄部材の溶接部分等でくぼんだところや材料小口等については、時間とともに錆が出てくる事があります。
本商品をいつまでも美しく保つためには、定期的なメンテナンスが必要です。

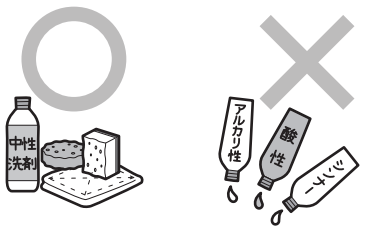
■メンテナンスの目安は、少なくとも年に1～2回程度です。特に沿岸地帯や交通量の多い道路沿いは、**塩分**や**鉄粉**等の粉塵による汚染が進みやすいので、こまめにお手入れをしてください。

■お手入れ方法

●軽度の汚れ

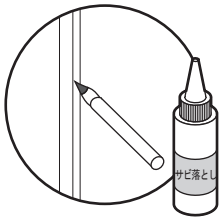
汚れは柔らかい布や、スポンジ等で拭き取って下さい。
金属タワシや研磨剤入り洗剤でこすると表面が傷つき、錆の発生、腐食の原因となります。

お手入れは中性洗剤を使用して下さい。シンナー・ベンジン等の石油系溶剤は絶対にご使用にならないでください。
塗装がはげることがあります。



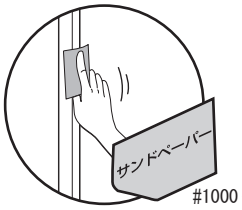
●錆が発生した場合

①『鉄サビ落とし』というサビ除去剤を、除去するサビの上にナイロン刷毛を使用し、たっぷり塗ります。
しばらく放置するとサビが消えてきますので、金属素地が出たら、布等で拭き取ります。



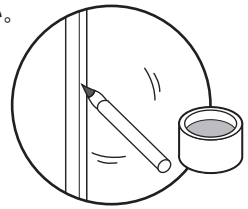
推奨：ワイエステック製
ｽｰﾊﾟｰｻﾋﾞﾉﾝSS
『鉄サビ落とし』
※ﾎｰﾑｾﾝﾀｰで購入出来ます。

②布等で拭き取った後、#1000(極細)程度のサンドペーパーでこすり、表面を滑らかにします。



#1000(極細)程度

③表面を塗装用シンナーで拭いて乾かした後、『サビテクト』という上塗り兼用サビ止め剤を塗布して下さい。



推奨：カンペハピオ製
『サビテクト』
※ﾎｰﾑｾﾝﾀｰで購入出来ます。

ステンレス製品のお手入れ方法

※本書は商品の取り扱いについて説明したものです。
紛失されないよう、大切に保管してください。
Ver.1 Z05

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
本製品を正しく御理解いただくために、この説明書をよくお読みください。

■ステンレスに関して

『ステンレスは、絶対に錆びないのではなく、錆びにくい金属です。』

ステンレス表面は、クロムと酸素が結合してできる薄い酸化皮膜で保護されています。
仮に表面に傷が付いても空気中の酸素がクロムと結合し、すぐに酸化皮膜を再生します。
しかし、長期間お掃除しないままにしておくと、ステンレス表面に付着した埃・煤・塵・鉄粉が酸化皮膜の再生を妨害し、錆の原因となります。

■お手入れ方法

ステンレス製品をいつまでも美しく保つためには、定期的なメンテナンスが必要です。

メンテナンスの目安は、少なくとも半年に1～2回程度です。特に沿岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスによる汚染が進みやすいので、こまめにお手入れをしてください。

●軽度の汚れやしみ

中性洗剤や石鹸水を布やスポンジに含ませ、その後水洗いや水拭きをして、最後に乾いた布で仕上げをしてください。

●初期の錆（もらい錆程度）

中性洗剤や石鹸水を布やスポンジに含ませふき取ってください。
きれいに除去できない場合は、市販のナイロンたわし(推奨；住友スリーエム製 スコッチ・ブライトナイロンたわし)等でステンレスの研磨目にそって均一に力を入れ、こすり落としてください。
その後十分な水洗いをして、最後に乾いた布で拭いてください。

●赤錆

市販のステンレス清掃薬剤(推奨；カンペハピオ製 復活洗浄剤 ステンレス用)等で、
ステンレスの研磨目にそって均一に力を入れ、こすり落としてください。
その後十分な水洗いをして、最後に乾いた布で拭いてください。

⚠ 注意

- **いずれの場合も、必ず十分に水拭きをして、最後に乾いた布で拭いてください。**
- **事前に目立たない部位でテスト洗浄を行い、異常がない事を確認してください。**
- **スポンジやナイロンたわしなどを使用する場合は、必ずステンレスの研磨目にそって均一に力を入れてください。**
- **表札のネーム部等、研磨による剥離や薬剤による不具合が予測される部位には、養生を行ってください。**

アルミ製品のメンテナンス方法

※本書は商品の取り扱いについて説明したものです。
紛失されないよう、大切に保管してください。

Ver.1 Z06

■アルミの特性

アルミは強度・耐食性に優れ、鉄などに比べサビにも強い素材ですが、ステンレスと同じく絶対に錆びない金属ではありません。

腐食の最大の原因は、大気中にあります。
使用条件や環境によっては、大気中の汚れによる「もらいサビ」を受けることがあります。
大気中の汚れには,
①ほこり ②すす（ばい煙）③鉄などの金属粉 ④亜硫酸ガスなどの排気ガス ⑤海塩
などがあります。

これらがアルミ製品の表面に付着し、そのまま長期間放置しておくと空気中の湿気や雨水の影響を受けてアルミを腐食させてしまうことがあります。
お手入れ方法としては、年に数回の水洗いと乾拭きだけで十分です。

■お手入れ方法

年に１～２回の水洗いで腐食は防げます。

メンテナンスのポイントは年に数回の水洗いと乾拭きだけです。
ほとんどそれだけでアルミの美しい光沢はいつまでも保ちます。
ただし、汚れのひどい工業地帯や海岸の近くなどでは、状況に応じて回数を増やしてください。

汚れが著しくサビが出ている場合

中性洗剤をつけたスコッチブライト、または目の細かい紙ヤスリで軽くこすり、汚れやサビを取り除きます。
その後、水洗いし、乾拭きしてください。

●メンテナンスには布やスポンジなどの柔らかいものを用い、金属製のブラシや金ベラの使用はさけてください。
●洗剤は、必ず中性洗剤をうすめて使用してください。
●小石、砂などが付着したままこすると、アルミ表面に傷がつきます。あらかじめ取り除いてください。

※門扉の場合
門扉を開閉する際に動きが悪く、ヒンジの部分がギシギシ音がするようになりましたら、潤滑油を使用してください。

真鍮・銅製品のメンテナンス方法

※本書は商品の取り扱いについて説明したものです。
紛失されないよう、大切に保管してください。

Ver.1 Z07

■真鍮・銅の特性

真鍮・銅は、さまざまな金属の中でも特に加工性や耐食性に優れて美しいため、調理器具や貨幣、金管楽器、燭台や額縁、仏具など、身近で幅広く使用されているポピュラーな金属です。
真鍮・銅は、空気中の成分と反応してくすんだり黒ずんだりする性質がありますので、お使いいただくうちについていく傷や、古びたアンティークゴールドに変わっていく色の風合いなどをじっくりと楽しめる、素朴で味わい深い金属です。

■お手入れ方法

銅や真鍮は長時間放置したり、汗がついたりするとすぐに黒ずんでしまいます。
銅や真鍮をお手入れする場合、柔らかい乾いた布で汚れを落とす程度であればアンティークのテイストを維持することができます。
やはりアンティークの風合いが銅や真鍮の一番の持ち味ですので、あえて手の込んだメンテナンスをしない、というのもひとつの手だと思います。

汚れが軽い場合

ホコリやチリ等を取り除き、乾いた柔らかい布で、傷を付けないように水分を拭き取ります。
雨上がりに行いますと酸性雨による腐食を防ぐことができます。

汚れが著しくひどい場合

黒ずみをきれいに落としたい、ピカピカにしたい場合には市販の研磨剤や研磨布を使うと簡単に元に戻りますが、ご家庭にあるものでも代用できます。
レモン汁（もしくはお酢）少々＋お塩少々を混ぜ合わせて、その中に数分間浸けてみましょう。
その後よく水洗いをし、乾いた布で拭いて頂くとキレイになります。

⚠ 注意

・市販品には浸けておくだけでキレイになる液体状のクリーナーもありますが、刺激が強すぎて問題を起こす場合もありますので使用には注意が必要です。
商品をキレイにする際には一度目立たないところで試してみてからメンテナンスを行ってください。

・酸性洗剤・アルカリ洗剤・シンナー・ベンジン等は、腐食の原因となる恐れがありますので使用しないでください。

・金属性のブラシ・やすり・金属タワシ・研磨剤入りのワックス等は製品表面を傷つける恐れがありますので使用しないでください。

・いずれの場合も必ず十分に水拭きをして、洗剤等が残らないようにしてください。